

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2021 年定時社員総会 議事録

日 時：2021 年 8 月 21 日（土）10：30～12：00

形 式：Web 会議形式（Zoom）

主会場：株式会社メディカ出版 第 1 会議室

（〒532-8588 大阪市淀川区宮原 3-4-30 ニッセイ新大阪ビル 16 階）

【議事次第】

I. 開 会

- ・代議員111名に対し、出席75名と委任状提出23名の合計が98名となり、本総会の成立に必要な過半数の定足数を満たしていることが報告され、開会が宣言された。

II. 理事長挨拶（藤野理事長）

- ・藤野理事長より挨拶があった。

III. 報告事項

1. 理事会および社員総会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。

2. 事務局報告（大塚理事）

1) 会員動向

- ・2021 年 8 月 1 日時点の会員数が以下のとおり報告された。

一般会員：1,880 名（Dr 1,087、Ns 286、CE 349、PT 120、他 38）

賛助会員：16 社 ／ 年間購読契約：13 件

- ・会員動向について、医師会員が増加傾向にあり、他職種については横ばい・微減傾向にあることが報告された。例年、学術集会を境に増減を繰り返す傾向にあったが、2020 年 6 月以降は全体として増加傾向にあり、会員数が安定してきている。
- ・一般会員の会費納入状況は、2019 年度が 88.9%、2020 年度が 96.1%となった。

2) 代議員の所属変更

- ・2020 年 8 月～2021 年 7 月における代議員の所属変更を確認した。

3. 定款・定款施行細則・内規改訂の報告（大塚理事）

1) 定款・定款施行細則 ：定款第 12 条

- ・定款第 12 条の改定については、第 4 号議案にて審議を行う。

2) 理事会・各種委員会内規 ：第 6 章学術集会第 23 条

- ・学術集会の余剰金を学会本体と会長に分配する割合はそのままとする一方、従来無制限だった会長への寄付の上限額を他学会に準じ 500 万円とする改正を行ったことが報告された。

3) 専門医制度規則・施行細則

- ・細則第 8 条に、委員会協力員の任命にかかる条文を作成した。
- ・細則第 16 条において、呼吸療法専門医の更新申請に際し、学術集会出席証明書を紛失等により提出できない場合、暫定的に認定期間を 1 年延長し、翌年の学術集会で演題発表を行えば次年度に再申請できるとする改定を行った。
- ・細則第 20・21 条において、呼吸療法専門医および研修施設の申請・登録にかかる審査料・登録料の消費税相当を申請者負担とし、税抜き表示とする改定を行った。

4. 社員・委員会体制の報告（大塚理事）

1) 2020～2022 年 社員（代議員）名簿

- ・社員（代議員）名簿を確認した。

2) 委員会名簿

- ・2 委員会の委員長交代（小児在宅人工呼吸検討、専門医）と、各委員会の委員交代について、理事会で確認・承認を行ったことが報告された。

5. 学術集会開催報告・準備状況

1) 第 42 回学術集会開催報告（志馬会長）

2020 年 12 月 20 日（日）・21 日（月）国立京都国際会館

会期後のオンデマンド配信：12 月 28 日（月）～2021 年 1 月 25 日（月）

- ・新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、2020 年 6 月 27 日（土）・28 日（日）から上記日程に会期を延期し、現地開催と会期後のオンデマンド配信を併用した形式で開催されたことが報告された。現地開催に際しては COVID-19 への感染症対策を徹底し、来場者とスタッフの安全を第一に運営を行った。閉会后、参加者からの感染は報告されていない。
- ・講演数は以下のとおり。

①セッション数 合計 125 セッション

指定演題…84（うち共催セミナー14）

一般演題（優秀演題+late braking+一般演題口演）…41

②演題数 合計 385 演題（取り下げ後、368 演題）

指定演題…152（うち共催セミナー18）

一般演題（優秀演題+late braking+一般演題口演）…233

- ・参加人数は以下のとおり。

①現地参加者数：620 名（2 日間）

②オンデマンド含む全参加登録者数：1,512 名（名誉会員、招待者、協賛企業除く）

2) 第 43 回学術集会開催報告（大塚会長）

2021 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）パシフィコ横浜会議センター

会期後のオンデマンド配信：7 月 20 日（火）～8 月 20 日（金）

- ・上記日程での現地開催と、会期後 1 カ月間のオンデマンド配信が実施されたことが報告された。現地会場では新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染対策を徹底させ、来場者とスタッフの安全を第一に運営を行った。閉会后、関係者からの COVID-19 感染は報告されていない。

- ・会期中に豪雨災害が発生し、公共交通機関の遅延や運休が相次ぎ、一部役割者および参加者の来場に支障をきたした。座長は主催関係者が代役を務め、演者各位には急遽遠隔での講演や、講演動画の作成・提出により対応いただいた。
 - ・参加人数は以下のとおり（8/10 時点）。
 - ①現地参加者：延べ 867 名（2 日間）
 - ②オンデマンド含む全参加登録者数：1,672 名（招待者・協賛企業関係者含む）
- 3）第 44 回学術集会準備状況（讃井会長）
- 2022 年 8 月 6 日（土）・7 日（日）パシフィコ横浜ノース
- ・大会テーマを「**Break Through** 扉を開けよう」とし、上記の日程・会場で開催準備を進めていることが報告された。前会長の指導を仰ぎ、会員各位に満足いただける学術集会を開催できるよう準備を進めていく。
- 4）第 45 回学術集会準備状況（近藤会長）
- 2023 年 8 月 5 日（土）・6 日（日）ウインクあいち
- ・上記の日程・会場での開催が正式に決定したことが報告された。
6. 各委員会報告
- 1）将来計画・財務委員会（藤野委員長）
- ・持続可能な学会組織の構築を目指して活動を行い、若手の積極登用による代議員数の維持（110 名）、呼吸療法専門医研修施設の不在県大幅解消（24 県→4 県）、NPO 法人日本 ECMOnet との協同事業による財務改善（内部留保 5 千万→9 千万円）などが報告された。
 - ・他学会との連携を引き続き検討し、本会の特長を活かした学会の柱となる事業の構築や、学術研究の推進を進める方針を確認した。
- 2）人工呼吸編集委員会（竹内委員長）
- ・『人工呼吸』第 37 巻第 2 号（2020 年 11 月）、第 38 巻第 1 号（2021 年 5 月）の発行と、第 38 巻第 2 号（2021 年 11 月）、第 39 巻第 1 号（2022 年 5 月）の企画案が報告された。
 - ・2020 年度は投稿数が 23 件で、前年度の 20 件と同水準だった。2021 年度は 7 月時点で 7 件の投稿があった。
 - ・2020 年度『人工呼吸』論文賞授賞者として 2 編を推薦し、理事会で承認された。本年の第 43 回学術集会で優秀演題とともに表彰を行った。
 - ・ユーザーレポート・広告の掲載状況は、第 36 巻（2019 年度）がそれぞれ 9 社・3 件）、第 37 巻（2020 年度）がそれぞれ 9 社・2 件となり、広告数が 1 件減少した。
 - ・投稿規定に、Letter to Editor の規定、寄稿原稿に対する委員会査読の実施、図表の転載許諾料発生時の著者負担の明記などの改訂を加えた。
 - ・DOI の取得に向けて取り組んだ結果、JST より J-Stage への登載が承認された。
 - ・2021 年 6 月に日本メディカルネクスト社より 1 年間のバナー掲載申込があり、掲載基準を確認のうえ、広告料年間 24 万円（税別）の入金を確認後、7 月より学会ホームページのトップに掲載した。

- ・本会の用語集に掲載されている「経鼻高流量療法（NHFT）」について、「高流量鼻カニューラ（(high flow nasal cannula : HFNC) 酸素療法）」への改訂を理事会に上申し、承認された。用語集はすでに差し替えを行った。
 - ・用語集の改訂は、Ad hoc 委員会（仮）を設置して委員会主導で進めていくことを検討している。
- 3) 代議員審査委員会（高橋委員長）
- ・2020～22 年代議員として、理事会推薦で新たに 3 名が承認されたことが報告された（平井豊博 医師会員、寺澤大祐 医師会員、大西淳司 医師会員）。
- 4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（石川委員長）
- ・次期委員に寺澤委員長ほか、新委員が理事会で承認されたことが報告された。従来の委員には、引き続きマニュアルの改訂にご協力いただく。
 - ・『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 2 版』の制作に向けて、予算案は理事会の承認を得て、メディカ出版への制作委託についても了承が得られたため、第 1 版を踏襲し、バージョンアップしたものを、2022 年度中に発行できるよう進めていく。
- 5) セミナー委員会（平尾委員長）
- ・2020 年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、予定していた 5 セミナー全ての開催を見送ったことが報告された。その対応策としてオンラインセミナーの実施を検討し、2021 年度の活動として、第 50 回日本呼吸療法医学会セミナーをオンラインで以下のとおり実施した。
 - 概要 録画した講義をオンライン配信（PC、スマホ、タブレットで視聴）
 期間限定のオンデマンド型配信（リアル開催・ライブ配信はなし）
 テキストはオンライン上で公開はせず印刷製本したものを事前送付
 期限内に全講義（35 分×9）を視聴（早送り・飛ばし見防止機能あり）
 視聴後、確認テスト合格（合格するまで再解答可）をもって修了証発行
 3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与
 - 配信期間 2021 年 6 月 1 日～6 月 30 日
 - 受講料 7,000 円
 - ・医師向けセミナーも含めた今後のセミナーは、上記の実施結果や手応えをふまえて検討を行う。
- 6) チーム医療推進委員会（横山委員長）
- ・今後の活動の方向性が検討課題となっており、引き続き議論を行っていくことが報告された。
- ◆RST プロジェクト（尾崎理事）
- ・現時点で RST 認定登録施設数が 33 施設であることが報告された。
 - ・認定施設をホームページで公開した。引き続き、登録募集を呼びかけるとともに、登録情報の確認・解析を行っていく。
- 7) 安全対策・危機管理委員会（中根委員長）
- ・人工呼吸器の作動停止事例情報（2020 年 7 月～2021 年 6 月）について、以下のと

おり報告された。

→情報提供数：12 件（実害なし 12 件、死亡 0 件、後遺症あり 0 件）

（アラーム鳴動 7 件、停止に気づいたもの 5 件）

- ・医療安全全国共同行動 2021 年度定時社員総会が 6 月 23 日に予定され、佐藤大三委員が出席し本会の状況について報告を行った。
- ・「人工呼吸器と組み合わせて使用する製品に関する自主点検等について」（令和 2 年 12 月 21 日公開）の発出に際し、厚生労働省から依頼を受け、厚労省、PMDA、藤野理事長、中根正樹安全対策・危機管理委員会委員長とで WEB 会議・メール審議を重ねた後、当該文書が各都道府県衛生主管部（局）長宛に通知された。
- ・『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』の改訂を予定している。

8) 専門医委員会（藤野理事）

- ・次期委員長に佐藤委員長ほか、新委員が理事会で承認されたことが報告された。
- ・呼吸療法専門医・研修施設の 2020 年度〈更新・新規〉認定結果が報告された。認定数は 2020 年度末時点で、施設 112・専門医 244 名となった。
- ・研修施設不在県が 4 県まで減少した（福島・富山・和歌山・宮崎）。
- ・2021 年度より、専門医・研修施設いずれも新規申請を電子化し、PDF 化した申請書類をメールで受け付けることとした。
- ・専門医の審査料・登録料は課税対象であり、課税分を申請者負担とする改定が理事会で承認され、専門医審査料・登録料・更新審査料は 10,000 円、研修施設審査料・登録料・更新審査料は 20,000 円のままだが、「税抜」と表記を改訂し、実質値上げとなった。
- ・呼吸療法専門医テキストを日本 ECMOnet による人工呼吸セミナーの教材として提供し、使用料：2,135 名（受講者）×11,000 円（テキスト代）＝23,485,000 円を申し受けた。
- ・第 43 回学術集会では 2 コマが専門医更新講習として設置された。
- ・『呼吸療法専門医テキスト 2021』は、8 月に会員専用ページにて公開した。
- ・本年度の筆記試験は 12 月 4 日（土）に新大阪で実施する。客観問題 10 問（5 択）＋記述問題 1 問（4 題から選択）の合計点 6 割以上を合格とする。

9) ECMO プロジェクト委員会（大下委員長）

- ・COVID-19 の影響により、2020 年度は WEB 会議（Zoom）形式の委員会を 18 回開催し、頻回に情報交換を行った。理事会から、委員会での審議内容を会員も共有することができないかとの提案があり、委員会で検討いただくこととした。
- ・2020 年度は日本 ECMOnet 主催の人工呼吸/ECMO 講習会の運営に全面的に協力し、2020 年 4～12 月に全国 47 都道府県で各 1 回以上の講習会開催に携わったことが報告された。
- ・COVID-19 診療に関する資料を作成し WEB 公開した。
（COVID-19 の臨床的特徴、人工呼吸管理上の注意点、人工呼吸回路の交換方法
腹臥位療法、筋弛緩薬、ECMO）

- ・電話・インターネット相談窓口を開設し（24 時間対応、土日祝含む）重症 COVID-19 患者の診療相談・出張往診等を実施した。
- ・日本 ECMOnet で構築したデータベース CRISIS にて重症 COVID-19 症例のレジストリー構築を行った。全国 ICU の空床状況をリアルタイムで管理し人工呼吸/ECMO を使用した患者の転帰調査となっている。
- ・ECMO プロジェクト（参加 105 施設、2021 年 5 月現在）の症例登録は、CRISIS との合体を検討している。
- ・日本経皮的心肺補助研究会との共同編集により『ECMO・PCPS バイブル』を 2021 年 2 月に発行した（B5 判、376 頁、メディカ出版、11,000 円）。初刷 2,400 部のところ、好評により 1,000 部の増刷を行った。本書の発行により、各学会に 287.5 万円の原稿料・広告料が支払われ、残部は実売数に応じて印税収入（10%）が生じる。
- ・AVALON ダブルルーメンカテーテル（ゲティンゲ®）については、厚生労働省に商品としては認可されたが保険償還価格の見直しはなく、企業の要望する価格には及ばないことから実際には輸入予定が立っていないことが報告された。
- ・日本救急医学会に ECMO ネットワーク特別委員会が 2020 年 11 月に新設された。日本集中治療医学会・日本救急医学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会で連携し、日本の ECMO 治療体制向上に向けて進めていく。

10) 利益相反委員会（佐藤委員長）

- ・日本医学会の COI 表示に一部改定があり、本会の COI 申告書についても委員会で変更案を検討し、理事会で承認された。主な変更点は以下のとおり。
 - ①「企業等の役員・顧問職」の項目は金額の明記がないため削除
 - ②各項の金額欄に「1 つの企業・団体から年間～万円以上」の文言を挿入
 - ③原稿料、研究費・助成金、奨学寄附金、旅費・贈答品額をそれぞれ 100→50 万円、200→100 万円、200→100 万円、10→5 万円に減額
 - ④「企業などが提供する寄附講座」の項目を追加し、金額は「実質的に使途を決定し得る寄附金 100 万円以上」とした。
- ・引き続き、日本医学会の COI 表示を注視していくことが報告された。

11) 社会保険委員会（陳 委員長）

- ・内保連の加盟状況を以下のとおり確認した。
 - ①加盟認定：2018 年度より加盟
 - ②代表委員：陳委員長、落合委員、山田委員、志馬理事の 4 名を登録
 - ③診療領域別委員会：1. 検査関連委員会 3. リハビリテーション関連委員会
10. 呼吸器関連委員会 20. 在宅医療関連委員会
- ・2022 年度診療報酬改定に関して HP にて公募した結果、2 件の申請要望があった。
 - ①在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料
 - ②経皮的血液ガス分圧測定、血液ガス連続測定
- ・関連団体との調整の結果、共同提案を以下のとおり行った。

◆未収載

- ・在宅医療機器安全管理指導料（呼吸ケア・リハビリテーション学会主提案）
- ・在宅ハイフロー（呼吸ケア・リハビリテーション学会主提案）
- ・小児在宅ハイフロー（小児呼吸器学会主提案）

◆既収載

- ・経皮的血液ガス分圧測定連続測定（呼吸療法医学会主提案）
（呼吸器学会、呼吸ケアリハ学会、睡眠学会共同提案）
- ・特発性肺線維症の急性増悪に対する吸着式血液浄化法（呼吸器学会主提案）
- ・人工呼吸器装着時意思決定支援管理料（呼吸器学会主提案）

◆基本診療料（A 区分）既収載

- ・呼吸ケアチーム加算（呼吸ケア・リハビリテーション学会主提案）

◆その他

- ・CPAP の適用と遠隔モニタリング
（呼吸器学会主提案、睡眠学会、呼吸ケアリハ学会共同提案）

12) 倫理委員会（志馬理事）

- ・第 42 回・第 43 回学術集会において、ワークショップを委員会として実施したことが報告された。
- ・倫理検討症例登録については引き続き検討を行うとともに、研究倫理についても委員会でも審議を行っていく。

13) 学術集会あり方検討委員会（西田委員長）

- ・理事会、会長、将来計画・財務委員会と連携し、引き続き学術集会のあり方について審議していくことが報告された。
- ・抄録アプリについては、今後の会長と理事長を交え、再度、採否について検討することとした。

14) 学術研究推進委員会（志馬委員長）

- ・RedCap については大阪大学が所有するアカウントを利用し、藤野理事長を代表者として導入できたことが報告された。
- ・VAE に関する多施設共同前向き観察研究を開始しており、登録期間は 2021 年 12 月末までの予定である。
- ・COVID-19 関連では、内閣府 SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」研究における新型コロナウイルスの治療薬・ワクチンの開発に資する「データ連携基盤」の構築プロジェクトに今井委員が参加している。
- ・今後の活動として、学会主導による事案を推進していく方針が報告された。複数施設の参画を得て、企業からの寄付金を各施設に分配するプロジェクトの立ち上げを 1 つの形として考えている。研究補助金制度についても審議を行う。

15) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）

- ・2020 年度から、改訂第 2 版の制作を目的とした新たなワーキンググループを再結成し、6 年以内の改訂を目標とする。

- ・改訂第2版の制作において、項目に打診・聴診・小児を加える。また音声映像についても検討を行う。ただし財源に限りがあり適切な予算の見積を行うこととした。
- 16) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（中根委員長）
 - ・ワーキングのメンバーは承認されたが、活動開始にはいたっていない。
- 17) ARDS 診療ガイドライン作成統括委員会（讃井委員長）
 - ・2021年3～4月に推奨作成のためのパネル会議（成人・小児）を開催し、推奨文を確定した。パブリックコメントの募集が終了し（2021年6月）、以下のスケジュールで発行に向けて進められることが報告された。
 - 2021年8月 ダイジェスト版（冊子）を真興交易社より発行
 - 10月 英語版を日本集中治療医学会と日本呼吸器学会の英文誌に投稿
 - 2022年1月 フルバージョン+患者・家族のための手引き（PDF）公開
 - 5月 委員会報告を機関誌にて発行
 - ・出版にかかる費用の予算案は200万円となり（各学会の理事会にて承認済）、3学会で按分することを確認した。

IV. 審議事項

第1号議案 2020年度事業報告および決算書類承認の件（大塚理事、川前・橋本監事）

<収 入>

- ・年会費：会員数の増加、納入率の改善などにより、前年度より45.8万円の増となった。年度内の納入率は約92.4%となり、未収金は122.4万円となった。
- ・事業費：コロナ禍のため、各種セミナー、ECMO シミュレーション・ラボは実施されなかった。
- ・広告費：2020年度から機関誌が電子版に移行し、1号・2号いずれも広告は1社のみとなった。ユーザーレポートについては、理事会や委員会から賛助会員担当者に直接連絡を取るなどし、掲載数は維持された。『ECMO・PCPS バイブル』の広告料により前年度より193,983円の増となった。
- ・機関誌販売：電子版移行により、別刷販売は0、雑誌販売は前期8冊から1冊への減、文献使用料・許諾料は13,609円減となり、前年度より354,828円減となった。
- ・書籍販売：『ECMO・PCPS バイブル』の原稿料2,272,728円により、前年度より2,281,318円の増となった。
- ・ECMO チーム等養成研修事業：
 - 日本 ECMOnet との合同活動にともない、銀行口座を本会名義で開設したため、厚生労働省の助成金額272,727,273円を収入として計上した。
- ・当期収入は364,760,333円となった。学術集会・ECMO チーム関連を除くと23,533,791円となった。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：電子化による発行経費・郵送費の削減で、前年度より2,226,102円

の減となった。

- ・事業費：各種セミナー、ラボの実施見送りにより経費が約 180 万円生じた。全体としては前年度より 14,307,131 円の減となった。
- ・委員会費：学術集会時の会合がなくなり、すべて WEB 委員会となったため、前年度より 939,188 円の減となった。
- ・ECMO チーム等養成研修事業：日本 ECMOnet からの『呼吸療法専門医テキスト』使用料 21,350,000 円は学会内の内部取引扱いとし、272,727,273 円と相殺した。
- ・理事会費：本年度はすべての理事会が WEB 会議方式となり、前年度より 656,253 円の減となった。
- ・社員総会費：電信による社員総会開催により、前年度より 159,703 円の減となった。
- ・当期支出合計は 330,790,214 円となった。学術集会・ECMO チーム関連を除くと 15,309,208 円となり、次年度繰越利益は 90,312,544 円となった。

<収支合計>

- ・単年度収支は 8,224,583 円の黒字となった。

<監査報告>

- ・川前監事・橋本監事から、2021 年 5 月 20 日（木）に会計監査を行い適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2020 年度決算について、賛成 58 名・委任状 23 名、計 81 名の賛成があり、出席した社員の過半数を満たし承認を得た。

第 2 号議案 2021 年度事業計画および収支予算の件（大塚理事）

<収 入>

- ・会費収入：2021 年 5 月 1 日時点の会員数にもとづき計上した。
賛助会員が 15 社に増え、その分を計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 2 回、医師向けセミナーを年 1 回として、各 500 名の参加費収入を計上した。ECMO シミュレーション・ラボについては開催未定のため 0 円とした。
- ・広告収入：1 号の広告・ユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
バナー広告掲載料も実費を 1 号の広告料として計上した。
- ・機 関 誌：別刷販売は 38-1 号から注文のあった実費を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』は市場販売数 650 冊を見込んで計上した。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・以上、当期収入予算は 83,849,523 円で、前年度繰越利益 90,312,544 円をあわせて収入総計予算は 174,162,067 円となった。

<支 出>

- ・機 関 誌：1 号の発行諸経費にもとづき計上した。J-Stage 登載費用として、本年度

の投稿論文 12 本を見込んで 9 万円を別刷印刷代等の項目に計上した。

- ・事業費：医学会セミナーを年 2 回、医師向けセミナーを年 1 回として、セミナー予算にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。各種会議が WEB 開催形式に移行したため、旅費の支出が大きく削減された。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・専門医等：『呼吸療法専門医テキスト 2021』の編集費などを計上した。
- ・雑費：過去の機関誌 PDF 化・公開費用を見積にもとづき計上した。
- ・その他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は 75,293,151 円、次年度繰越利益が 98,868,916 円となった。

＜収支合計＞

- ・単年度の収支は約 856 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・以上、2021 年度予算について、賛成 66 名・委任状 23 名、計 89 名の賛成があり、出席した社員の過半数を満たし承認を得た。

第 3 号議案 第 46 回学術集会会長候補者選任の件（藤野理事長）

- ・第 46 回学術集会会長について、賛成 64 名・委任状 23 名、計 87 名の賛成があり、出席した社員の過半数を満たし承認を得た。
- ・中根先生より挨拶があり、会場、会期、運営事務局などの検討を進めていくことが報告された。

第 4 号議案 定款変更の件（大塚理事）

- ・定款第 12 条（除名）の項目について、他学会例を参考に作成した懲罰規定を理事会で審議し、本総会に改定案が提出された。
- ・従来は処分内容が「除名」のみであったのに対し、本案では第 2 項に 1～8 号の懲罰の種類を追記した。うち、1～3 号の「訓戒」「訓告」「譴責」は社員総会の議決を省略できるが、4～8 号の「委員会委員罷免」「役員罷免」「専門医資格の喪失・停止」「会員資格の停止」「除名」については社員総会での議決を必要とする。
- ・以上、定款改定について、賛成 66 名・委任状 23 名、計 89 名の賛成があり、定款改定に必要となる社員総数の 2/3 以上を満たし承認を得た。

V. 閉 会

- ・藤野理事長より閉会宣言があった。